## 令和6年度「教学マネジメントチェックリスト」及び「アセスメントプラン」に係る点検評価・改善状況について

対応部局	学長からの指摘事項	対応部局における点検評価・改善状況
【全学科】 医療栄養学科 事務 学科 事務 学科 事務 学科 事務 学学科 事務 手護学科 事務 手護学科 事務 手護学科 事務 手護学科 事務 手護学学科 事務 手護学学科 事務 手護 学科 事務 手続き またい	されたい。 ・実施されていない科目がある場合には、早急に対応し、12月末時点での改善状況を報告されたい。 ・全ての科目で実施済みの場合には、実施済みと報告されたい。	医療保健学部看護学科 教学マネジメントプロジェクト   和目責任者が看護学科常勤教育である必修科目について、DPに定められた資質・能力を身に付けるための到達度の分析が実施されているかを調査した。 1) 対象科目数:49科目 2) 調査期間:2024年10月~11月10日 3) 調査項目 (DPと科目の到達目標が対応しているか 2)到達目標に沿って評価しているか 3)到遺音標で上に達成状況を把握しているか 4) 調査結果 (主に達成状況を把握しているか 5) では、10~40のすべて実施していない科目の状況: DPの学年目標と科目の開講学年との不一致、到達目標間の重なり、複数の評価対象物による総合的な評価などである。一部PPと到達目標が対応していない科目も見受けられたが、これはDPが後付けで設定されたことが関係している。 ・対応:次年度に向け、各科目では上記調査項目に関する課題への対応(到達目標ごとの評価、学生への説明、学を検討している。また、カリキュラム上の課題(学年目標が利格している)・対応: 次年度に向け、各科目では上記調査項目に関する課題への対応(到達目標ごとの評価、学生への説明、学・を検討しても。。 カーカーカーカーカーカーカーカーカーの表に、では、アルーカーのより、中で検討する。 このうち、現行カリキュラムでは対応困難なものについては、現在、新カリキュラム検討委員会が令和9年度開始の新カリキュラムにの中で、DPや科目の到達自標およびその評価が一貫するよう検討である。 [医療学学科] ・各科目の成績による学生の理解皮などを確認、レビューし接来を変善している。また、その内容を学科長に報告し、学科長は、各科目担当教員がレビューした結果を確認しており、特に問題はない。また、その内容を学科長に報告し、学科目担当教員がレビューした結果を確認しており、特に問題はないる。また、その内容を学科長に報告とし、学科長は、各科目担当教育がレビューした結果を確認しており、特に問題はないる。また、その内容を学科長に報告し、おりな成績により、レビューを行うことを依頼しており、特に問題はたいる。また、その内容を学科目の表による学を表し、関連している。 (医療性科学科) ・実施済み。 [医療性報学科] ・実施済み。 [立所者後学科] ・実施済み。 「立所者護学部ではDPに定められた資質・能力を身につけるための到達度の分析を4つの方法で実施している。・学位プログラムについては、科目レベルの結果を集前し把握している。 (国が日本経典学科) ・実施済み。 「立ていては、科目のに対し、対しないでは、教育のでは、教育がより、対しないでは、教育がより、対しないでは、教育がより、対しないでは、教育がより、対しないでは、教育がより、対しないでは、教育がより、対しないでは、対しないでは、表情が表していては、表情が表情が表情が表情が表情が表情が表情が表情が表情が表情が表情が表情が表情が表

対応部局	学長からの指摘事項	対応部局における点検評価・改善状況
【全研究科】 医療保健学研究科 看護学研究科 千葉看護学研究科 和歌山看護学研究科	・全科目について、シラバスにDPとの関連性が明示されているか点検されたい。 ・明示されていない科目がある場合には、早急に対応し、12月末時点での改善状況を報告されたい。 ・全ての科目で実施済みの場合には、実施済みと報告されたい。	【千葉看護学科】 ・令和5年度は、学部内教員が担う必修科目41科目中33科目での実施となったが、令和6年度は、開講している123科目中(必修68+選択55)のうち、学部内教員が科目責任者またはそれに準ずるコーディネータ教員となっている13科目について、「教学マネジメントチェックリスト」に基づく評価を実施するよう依頼し、12月時点で、8科目実施した。学部外の講師が科目責任者を担う科目については、目的・方法等について、年度開始前に依頼が必要であるため、令和7年度以後、実施していけるように検討する。 【和歌山看護学科】 ・全科目で実施済みである。各科目の担当教員は、授業計画(シラバス)策定時に、授業の概要(目的)およびDPと担当科目との関連を明らかにしたうえで、DPに定められた資質・能力を身に付けるための具体的な到達目標を設定している。さらに、到達目標に対応した各回の授業内容および成績評価(形成的・総括的評価)の方法・基準を定めることで、教員および学生が到達目標への達成水準を随時把握し、授業改善および学生の自己学習の深化につなげられるように取り組んでいる。・また教務委員会では、このような取り組み(指導と評価の一体化)を一層加速させる伝わ、授業(計画)におけるPDCAサイクルを図試化した資料を「シラバス和成委領」に掲載し、その内容を教職員会領で全教員に説明している。なお、DPの到達度は「ディブロマ・サブリメント」によって学生自身が把握することが可能である。今後は全学生のDPごとの到達度を教務委員会で総括的に分析することで、カリキュラム改訂の際の参考にしていく。 【医療保健学研究科のシラバスにDPOの関連性が明示されているのは2割程度の状況である。(11月時点)・大学基準協会認証評価改善課題への対応として、学位授与方針の学習成果に関する把握のため領域でとにカリキュラム・マッブ及びカリキュラム・ツリーを作成し、カリキュラム・マッブにより各科目とDPとの関連性がわかるようになった。・年度の後半において公開中のシラバスを修正することとは避け、令和7年度のシラバスから全科目に明記することとしたい。【看護学研究科】・実施済み。 【千葉看護学研究科】・実施済み。 【千葉看護学研究科】・実施済みである。シラバスにおいて、「学位授与方針との関連」欄に、当該科目とDPとの関連を全科目で示している(2024、10、1項確認済)。・また、DPを可視れするための手段として、各科目においてDPの重み付けを行い、ディブロマサブリメントにてGPAとの成績分布について示している。・また、DPを可視れするための手段として、各科目においてDPの重み付けを行い、ディブロマサブリメントにてGPAとの成績分布について示している。・また、DPを可視れするための手段として、各科目においてDPの重み付けを行い、ディブロマサブリメントにてGPAとの成績分布について示している。・また、DPを対しては、日本院が表している。・また、DPとの関連を全科目で示している。・また、日本院の対しまれば、日本院の表に対している。・またり、日本院の表に対している。・またり、日本院の表に対しまれば、日本院の表に対しまれば、日本院の表に対しまれば、日本院の表に対しまれば、日本院の表に対しまれば、日本院の表に対しませば、日本院の表に対しまれば、日本の表に対しまれば、日本院の表に対しまれば、日本の表に対しまれば、日本の表

対応部局	学長からの指摘事項	対応部局における点検評価・改善状況
医療情報学科医療保健学研究科(博士)		極度強要等的   中心

対応部局	学長からの指摘事項	対応部局における点検評価・改善状況
医療栄養学科	・国家試験合格率(管理栄養士)が全国平均を下回っている医療栄養学科においては、その原因を分析した上で課題点を洗い出し、12月末時点での改善状況を報告されたい。	【医療栄養学科】 ・過去6年分の模試の本学得点推移と、模試の全国平均値、国家試験合格者数・合格率、入学時の学力を比較した結果、国家試験合格率が低い原因は、①専門知識を得るための基礎学力やモチベーションの低さ、②勉強開始時期の遅さであると推察した。 ・①については、退学者や留年者を減らすための上記対応と同じである。 ・②については、早期勉強開始の意識醸成のため、現4年生から3年次模試を学内模試から業者模試に変更し、3年次2月に予備校講師と教員による合格法講座を実施した。また、前期(4~7月)の対策講座の内容を充実させるため、前年のテストまたは講義の週1回から、テストと講義の週2回に増やし、教員による講義を12コマから24コマに増やした。更に、実力把握機会を増やすため、4年生の業者模擬試験を前年の年間5回から7回に増やした。11月末の模試において、昨年度に比べほぼ確実に合格できる高得点者の割合は増加したが、学内平均点は全国平均点よりも低く、現時点では十分な成果が出ていない。国試対策講座や模試の解析結果共有などにより、勉強へのモチベーションを高める働きかけを継続する。
I R推進室 医療保健学部看護学科 千葉看護学科 和歌山看護学科	・「卒業時アンケート調査」がより精緻なものとなる ためには一定以上の回答率が必要であることから、ア ンケート実施部局及び回答率が低い学科においては、 回答率が高まるよう具体的な改善策を検討し、12月末 時点での改善状況を報告されたい。	【IR推進室】 ・定期試験等の関係から1月下旬から実施していたが、1月末では4年生は学校に来ないため昨年より1月中旬に繰り上げているが、あまり効果が現れていない。学生と直接対面する国試ガイダンスや貸与PC返還時に各学科事務からの声かけを行ったタイミングで回答率が上昇している。 【医療保健学部看護学科】 ・2023年度については国家試験ガイダンス(1/26)の際にPCを持参してもらい、終了前10分程度時間を設定してアンケートの記入を依頼したところ、99%の回収率となった。2024年度も同様の方法で行い、100%の回答を得た。 【千葉看護学科】 ・事務部にて、実施主体IR推進室から学生への調査方法(時期、媒体、集計、フィードバック)を把握し、令和6年度については、4年生の登校予定を把握し、これに合わせて、事務部で学生に周知し実施していく。今後は、PC返却日程も決まったので、この返却時に回答しているか確認したうえ、未回答の学生には回答を依頼していく。□ 【和歌山看護学科】 ・このアンケートがどのように生かされるのかその必要性について説明を行い、答えてもらえるよう呼びかけを行う。またメールでのお知らせ、ポスター掲示で認識機会を多くする。
学生支援センター 医療保健学科 医療情報学科 和歌山看護学科	・「卒後アンケート調査」がより精緻なものとなるためには一定以上の回答率が必要であることから、アンケート実施部局及び回答率が低い学科においては、回答率が高まるよう具体的な改善策を検討し、12月末時点での改善状況を報告されたい。	【学生支援センター】  ・卒後1年を経過した卒業生を対象に調査を行っているが、回収率向上は、大学における内部質保証の観点からも重要な課題と 認識している。そもそ業生の追跡調査は課題であるため、住所に加え、この数年は卒業時にメールアドレスの登録をマストにして管理するようにしている。次年度のアンケート調査は、従来通りハガキを送付しつつメールアドレスので登録をマストにして管理するようにしている。次年度のアンケート調査は、従来通りハガキを送付しつつメールアドレスにアンケートURLを送信する2段構えで実施する予定である。さらに、回答意欲を刺激するインセンティブについても検討中である。R6調査の回答率=153人 (63人 (23.8%) 【医療保健学部看護学科】 ・どのキャンパスも低い数値である。 ・卒業生の連絡先管理は同窓会の活動につながるため学生支援センターの業務である。 ・学生支援センターと協力して卒業生がアンケートに答えたくなるような仕組みを検討すると共に、教員と学生との個人的なつながりも重視していく。(個人情報の管理も重要) 【医療栄養学科】  ・アンケート実施部局の指示に従い、学科からも学生に対し、アンケートに回答するよう呼びかける。 【医療情報学科】  ・卒業生との交流や意見交換は、教育内容の見直しにも有効であることから、医療情報関連で働く学生との交流をはかるため、キャンパスディにおいて教員より医療DXに関する講演に指定発言として意見を求めるなどして呼びかけ、交流の機会を持った。 ・参加卒業生の発案で、共同で卒業生交流会を今年度中に実施する予定である。 【和歌山看護学科】 ・大学に関する案内を発信し、卒業生の横のつながりを維持する目的を説明し、学生のメールアドレスを取得する。時期は例年2月に実施する「卒業時アンケート調査」時。卒業生が卒業後大学へ来る機会(病院説明会や交流会など)をメールにて案内。参加卒業生に、卒後アンケートを対面で紙面で行う。以上の改善策を2025年度に実施予定である。

対応部局	学長からの指摘事項	対応部局における点検評価・改善状況
教務部医療栄養学科医療学科医療学科医療が近週間である。	・「授業評価アンケート調査」がより精緻なものとなるためには一定以上の回答率が必要であることから、アンケート実施部局及び回答率が低い学科においては、回答率が高まるよう具体的な改善策を検討し、12月末時点での改善状況を報告されたい。	【 依然部】・ で表示では、学科・研究科単位(以下「部局」)でアンケートの作成及び実施をしており、WebClassの参照権はアンケートを作成した部局に権限が有るので、教務部では、部局が実施したアンケート結果データを提出していただき、集計のみを行っている。  【 医療保健学部看護学科】 ・ WebClassのアンケート一覧に沢山のアンケート回答依頼が届くことから学生が見落とし、後回しにしてしまう傾向がみられこれによりアンケート回収率が悪いことが考えられた。そのため、各科目の最終講義日に合わせてWebClassへ即するよう試みた。また、各科目の担当者から最終講義日に授業評価回答の声をかけ、可能な範囲で回答時間を確保するようにした。上記に加え、WebClassから適宜学生へ全通メールで回答依頼を行った。令和6年度前期の回収率は57.0%と前年度より改善したものの、6割に満たない状況であるため、最終講義日に合わせたWebClassへの掲載および各科目からの回答の呼びかけを徹底するとともに、回答時間の確保方法を検討する。 【 医療情報学科】 ・ アンケート実施部局の指示に従い、学科からも学生に対しアンケートに回答するよう呼びかける。 【 医療情報学科】 ・ アンケート実施部局の指示に従い、学科からも学生に対しアンケートに回答するよう呼びかける。 【 医療情報学科】 ・ アンケート実施部の呼びかけ、授業での教員からの呼びかけを行なっていたが低調な結果であったため、令和6年度後期においては以下の方法を追加し80%以上を目指して改善を試みる。 1) 学科教員の全授業目において、アンケート回答を呼びかける。 2) 授業前後の時間を用いたアンケート時間の確保する。 3) 説明用の共通のスライドを用いる 4) アンケート期間中の途中経過について、メールおよび教授会で共有する。 【 東が丘看護学科】 ・ 従来は回答依頼を2回実施していたが、更にwebclassでの未提出者へのアナウンスを追加した。結果、前期の回収率は84.1%となった(前年度回答率は年度計80.1%)。 「北京丘看護学科】 ・ 従来は回答依頼を2回実施していたが、更にwebclassでの未提出者へのアナウンスを追加した。結果、前期の回収率は84.1%となった(前年度回答率は年度計80.1%)。 「・デスクネッツおよびデジタルサイネージによる掲示、最終講義回前後における全学生へのメール送信、授業・実習担当教員および事務職員からの直接周知など複数の回答促進策を講した結果、今年度前期の回答率は全体で81.1% (講義・演習科目80.1%)より上昇した。 実習科目89.7%)となり、昨年度(講義・演習科目77.2%、実習科目56.3%)より上昇した。

対応部局	学長からの指摘事項	対応部局における点検評価・改善状況
IR推進室 医療保健学部看護学科 医療栄養学科 医療情報学科	・「学生の学修に関する実態調査」がより精緻なものとなるためには一定以上の回答率が必要であることから、調査実施部局及び回答率が低い学科においては、回答率が高まるよう具体的な改善策を検討し、12月末時点での改善状況を報告されたい。	【IR推進室】 ・アンケート実施期間中は、回収率を集計し、各事務部へ1週間単位で状況を伝えている。また締切2週間前には、WebClass の未提出者へのメッセージ機能を2日おきに送信しているが、学生がWebClassを使用しないとメッセージが届かないので、各 キャンパス事務部に回収率を連絡するとともに、学生がWeb[Classを開いてアンケートに回答すように依頼している。
東が丘看護学科 千葉看護学科 和歌山看護学科		【医療保健学部看護学科】 ・事務部より数度アンケート協力の依頼メールを送付してもほとんど効き目がない状況である。 ・学生全員が集まるような機会に時間を設定してアンケート協力を依頼するのが効果的であると思われる。 ・どのアンケートのついても「無理に協力させられている」と思われないように、このアンケートに回答する目的は何か(回答することで何が改善される可能性があるのか等)を充分に説明し了解してもらうことが重要である。
		【医療栄養学科】 ・アンケート実施部局の指示に従い、学科からも学生に対し、アンケートに回答するよう呼びかける。
		【医療情報学科】 ・令和5年度の回答率が45.6%であったので、令和6年度の回収率は70%以上を目指して、適宜、事務部と連携して改善する。 ・各学年の必修科目において、事務部からアンケート実施を呼びかけるとともに、オンデマンド授業などを用いて時間を確保 して、授業前後のアンケート時間を確保する。
		【東が丘看護学科】 ・授業評価アンケートとは異なり、事務部アカウントではwebclassで未提出者を判別できないため、発信元のIR推進室と協力 しつつ未提出者への働きかけを強化すべく調整中。
		【千葉看護学科】 ・事務部にて、実施主体IR推進室から学生への調査方法(時期、媒体、集計、フィードバック)を把握したうえで、令和6年度 については、各学年の終了ガイダンス、講習会等の実施予定を把握したため、これに合わせて、事務部で学生に周知し実施し ていく。また、デスクネッツ・各学年の掲示板に協力依頼を掲示する。今後は、学生の登校や時間割を確認し、学生が回答し やすい時間を特定し、一斉に回答できるよう教務・学生支援担当と調整していく。口
		【和歌山看護学科】 ・デスクネッツのインフォメーションおよびデジタルサイネージによる掲示、学生へのメール送信、事務職員からの直接周知などの複数の回答促進の策を講じ、回答率の増加を図っている。その結果、今年度の回答率は和歌山看護学部全体で67.0%(1年77.2%、2年72.2%、3年64.2%、4年55.1%)となり、昨年度の61.4%より若干上昇した。高位学年の回答率が低い傾向が明確になったため、次年度には更なる回答促進の策を講じる予定である。
入試事務部	・入学した学生の学力水準が年々低下傾向にある中で、優秀な学生を一定数確保するための入試の在り方について、12月末時点での検討状況を報告されたい。	・受験生の減少により、各大学が年内入試に重点を置いている現状から、本学でも志願者獲得競争に負けないよう、年内入試で多くの優秀な学生を確保できるよう力を入れていく必要があると考えます。このことから、本学のアドミッションポリシーに共感し、目的意識や高い志を持った者を、より丁寧で多面的・総合的に評価を行うことで、志願者と大学とのより良いマッチングにもつながる総合型選抜・学校推薦型選抜に重点を置いていますが、早期の受験を望む受験生は基礎的な読解力や論述力を十分に身に付けないまま入学している可能性があります。・現在、年内入試については、大学教育を受けるために必要な知識・能力、思考力・判断力・表現力等を適切に評価するため、学部ごとの特色を活かし、レポートや小論文、面接、プレゼンテーション、事前課題、各種の資格・検定試験の結果など多様な資料などを活用して実施していますが、同時に知識・能力をはかるため、全学部で小論文試験や基礎テストの実施、調査書の学習成績の点数化などを実施できないか検討しているところです。ただし、このことが原因で、志願者が本学の入試を敬遠しないよう、バランスをとりながら、かつレベルを落とさないよう慎重に検討していく必要があると考えています。・まずは、医療保健学部の統合・再編をきっかけに広報活動を展開することにより、本学の魅力を発信し、多くの志願者を確保し、その中からより優秀な学生を安定的に選抜することが先決と考えています。

できるようにする。 ・キャリア教育や情報リテラシー等、学習意欲や学習スキルに係る科目を1年次前期前半に配置し、学生のレディネスを整る。 ・ディプロマサプリメントと共通ルーブリックの得点により初年次から国家試験や就職支援対策を実施する。 ・カリキュラム受講モデルの提示、等	対応部局	学長からの指摘事項	対応部局における点検評価・改善状況
・今和2年度入学生90名中、令和5年度に卒業した学生は78名であり、17名通学、3名留年であった。 ・今後の改善に活かすには、直波の状況の解析が要変なため、R・5の2年間の過学者の過学知の課題と指摘をした結果、退学者4 印12名が修学意欲の喪失、12名が転学等(進路再考)の不足した学生、明確な目的を持たす本学に入学した学生 また社会通応困難な学生が協加したことによると推験した。 ・上記を改善するには、①入学志願者増によるが、生の学力向上、②入学後の基礎学力向上、③ メンタル不調予備料への手 「医療情報学科] ・学生の学習意欲を向上させるために、キャリア教育において、新カリキュラムの考え方をまとめた書籍を用いた探究学 ・特別であった。 「東が任君護学科] ・学生の学習意欲を向上させるために、キャリア教育において、アドバイザー教員がレポートのテーマ発案に関わる が、添削やアドバイスを行い、文章中成能力の授業において、アドバイザー教員がレポートのテーマ発案に関わる が、添削やアドバイスを行い、文章力の改善を担った。 「東が任君護学科] ・をセメスターでカリキュラムガイダンスを開催し、学習姿勢や支援体制について説明している。また、学習に必要な情報 ・デラシー、レポートの作成の仕方、メールのマナーなどについても月に説明している。さらに、学年担任制、コンタクト ルーフラニティング、「年文からの国家就談対策などを充実させている。 「加川看護学科」 ・ 11周標学科「・ 11 中間 (3コマ)・化学 (2コマ)・生物 (2コマ)・母教(2コマ)・母教(2リエマ)・の対議を実施してきている。  1 上加・人「人文とした学についるがは、作成情にある」との報告を受け、今年度から「自然科学の基礎」を補う「名を設置し、数学(1コマ)・物理(3コマ)・化学(2コマ)・母教(2)・日本教育・日本教育・として以下の特別議書を行うこととした。 「教学者」として以下の特別議書を行うこととした。「「経済を受け、今年度から「自然科学の基礎」を補う「名を受け、日本教育」としていいの特別議書を行うこととした。 「日子特益を受け、日本教育」として、「経済を受け、日本教育」として、「経済を含む、日本教育」として、「経済を含む、日本教育」として実施した内等に関して学生の評価を確認したところ、次のようになった。特に、の疑問を指述したところ、次のようになった。特に、の疑問を指述したところ、次のようになった。 ・ 11月時点で「初年度教育」として実施した内等に関して学生の評価を確認したと、ころ、次のようになった。特に、の疑問を持定した。という、教的のが関に立っているとの音の表を指述したところ、次のようになっているとのも、一般の情報を行って、「後述表で明した」を持り議会、議論・演習等が多いことから、教的のか関に立っているとの一名を受け、表述、日本教育、と、本に、受け、日本教育、と、本に、教育、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、	医療保健学部看護学科 医療栄養学科 医療情報学科 東が丘看護学科 立川看護学科 千葉看護学科	で、全ての学科において、初年次教育において、学生一人一人の学力向上を図るための更なる方策につい	1) 学習支援プログラムの実施 [教務委員会・学生委員会] 2023年度より新人生を対象とした課外プログラムを実施している。 ・実施時期: 4月2回、5月1回 ・

対応部局	学長からの指摘事項	対応部局における点検評価・改善状況
		【千葉看護学科】 ・入学時の履修ガイダンスにおいてプレイスメントテストの結果を受けて、基礎数学等の初年次教育科目の履修を進め、開講している。 初年次教育として、2019年度よりWebClassでオリジナルの動画教材、1.「スタディ・スキルズ①の大学での初めての試験にむけて」(6月)、2.「スタディ・スキルズ②の電子データの管理の工夫(10月)、3.「レポート課題への対応(11月)」を配信している。1.は、再試験対象者の割合増加はなく一定の効果があるものの、2.が、前期レポート課題に対応していないため時期変更を予定している。加えて、2024年度より、2025年度入学者を対象とした入学前準備プログラム(1月)に、「大学講義の体験」を取り入れ、学習意欲を高める働きかけを新たに実施予定である。□
		【和歌山看護学科】 ・初年次教育プログラムとして系統立ててはいないが、「アカデミック・スキル」「キャリア教育 I 」や入学時のガイダンス、オリエンテーション、合宿研修など、初年次に大学での学修が円滑に進められるよう取り組んでいる。具体的には、1年次科目「アカデミック・スキル」において、大学での学修に必要なスキルの教授を独自に作成したテキストを用いて実施するとともに、学生が提出したレポートを添削しフィードバックを行っている。また、他科目の学修状況の報告を受け、学生が必要とするスキルの内容を随時更新し、テキストおよび講義内容に反映させている。基礎看護学科目においても専門科目への導入を意識した授業や実習を行っている。授業の受け方や成績で学年全体の課題は教務委員会とチーフアドバイザーが協力して解決に取り組み、学生個々の課題はアドバイザーに情報共有し、個別対応している。・また、教務委員会では教育目標の共有と授業の発展を図るため、非常勤講師(医師)が担当する1年次科目の「体の仕組みと働き」、「治療学総論」、「疾病治療論」の講義内容等について非常勤講師と相談を行っている。加えて、非常勤講師が多く在籍する日赤和歌山医療センターとの合同教育会議を年1~2回実施している。さらに、学生に「予習シート」、「目標設定シート」を配布し、主体的な学びが行えるように支援を続けている。
医療保健学部学科統合・再編検討チーム(企画部)	・医療保健学部の統合・再編構想について検討し、12 月末時点での検討状況を報告されたい。	・医療保健学部の統合・再編方針については、以下のとおり、令和6年11月6日開催の理事会・評議員会にて承認済み。 ・医療情報学科の入学者数減少を受け、人口減少期においても選ばれる大学を目指し、学生募集の安定化を図る対策が急務であることから、国家資格取得や社会の求める技能取得が可能な修学体制を整えることとする。 ・修学体制は、医療保健学部入学定員280名内で医療保健学部の3学科を2学科に統合・再編する。 ・医療情報学科80名定員を60名に減らした上で医療栄養学科に統合し、医療栄養学科を定員160名の医療保健学科(仮称)に変更(学位名も変更)する。 ・学科は既存専攻(管理栄養学、臨床検査学、医療情報学)の3専攻に加え臨床工学専攻(仮称)の4専攻(管理栄養学専攻68名、臨床検査学専攻32名、医療情報学専攻30名、臨床工学専攻30名)となる。 ・看護学科は、定員を100名から120名に増員する。 ・統合・再編時期は、2026年(令和8年)4月を予定。

## 令和6年度「教学マネジメントチェックリスト」及び「アセスメントプラン」に係る点検・評価指摘事項の検討状況について

No.	学長からの指摘事項	指摘事項の検討状況
1. 全学教務委員会	・学部教育の実施に当たり、学科においては授業科目の達成水準を「ルーブリック」等を活用して学生に明示しているが、必ずしも全ての科目で学生に明示していない状況もあることから、全学科の全科目において、授業科目の達成水準を「ルーブリック」等を活用して学生に明示することを大学の統一方針とするかについて、各学科の意見等も集約した上で、全学教務委員会において検討を開始し、2月末時点での検討状況について報告されたい。	①ルーブリックは学修成果の可視化において有効なツールの1つであり、本学においては2021年度に文部科学省の「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に採択され同事業によりLMSにルーブリックを実装したことから、全体的に、これを活用していく方針を掲げることは有意義である。 ②他方で、ルーブリックを用いた評価が特に有意義な科目もあれば、例えばCBTによる評価が有意義な科目もあり、全科目を対象とすることは、必ずしも有効ではないと考える。 ③このことから履修案内等で「ルーブリックとは何か」の説明を行った上で、これを用いることが望ましい科目に重点的に用いる方針を示した上で、個々の科目の適用の有無はシラバスで明示する運用としたい。
2. 全学教務委員会	・学部教育の実施に当たり、「学修ポートフォリオ」 に蓄積された学修成果等に関する情報を就職活動等の 際に活用できる旨を学生に説明している学科もある が、学生に説明する方針を定めていない学科もあるこ とから、学生に説明することを大学の統一方針とする かについて、各学科の意見等も集約した上で全学教務 委員会において検討を開始し、2月末時点での検討状況 について報告されたい。	①学修ポートフォリオの有効性については全学部・学科とも認識しているため、これを有効に活用していくことは全学の統一方針とすることが望ましいと考える。 ②なお、2022年度に策定した「東京医療保健大学学修ポートフォリオ要綱」はシステム運用に関することが中心であり、実際には学生や実習先に説明する等の丁寧な運用も行われていることから、認証評価に向けてはこうした取り組みが体系的に行われていることを示すように本年度中に要綱の見直しを行うこととしたい。
3. 全学教務委員会	「カリキュラムマップ」、「カリキュラムツリー」が 有効活用されているが、現在大学院では活用されてい ないため、今後大学院においても「カリキュラムマッ プ」、「カリキュラムツリー」を活用することを大学 としての統一方針とするかについて、各研究科の意見	①本学は、同じ学群に属し学修目標等が近似する研究科が複数存在するため、入学者がカリキュラムを対比できることは重要である。よって何らかの「マップ」や「ツリー」を統一的に作成することは有意義である。②対比可能性を確保するには学部と同様に「各教育課程のPに共通する基本的な考え方」を前文として示すことも必要であるから、前文案を以下に記する。前文案は現時点でのものであり、教育課程の発展に伴い適宜見直しをしていくことが望ましいと考える。 〈修士課程 DP前文案〉東京医療保健大学大学院修士課程において、所定の期間在学し、学則に定められた単位を修得し、修士課程の修了要件を満たした者であり、「専門知識」、「高度な実践能力」、「倫理的態度」及び「研究能力」を有し、医療・保健分野において卓越した専門性、深い倫理観、および社会的責任感を備えていると認められる者に対して、修士の学位を授与します。 〈博士課程 DP前文案〉東京医療保健大学大学院博士課程において、所定の期間在学し、学則に定められた単位を修得し、研究指導を受けた上で、研究の取り組みから「高度な専門知識」、「研究能力」、「倫理的態度」および「社会的貢献力」を有し、医療・保健分野において自律した研究者として、研究と実践を推進する能力を備えていると認められる者に対して、博士の学位を授与します。 〈参考:学部 既存のDP前文〉東京医療保健大学に4年以上在学し、学則に定める所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得し「知識・理解」、「汎用的技能」、「態度・志向性」及び「総合的な学習経験と創造的思考力」に関する学士力を有するとともに、医療分野において高い専門性、豊かな人間性及び教養を備えていると認められる者を卒業とし、学士の学位を授与します。 ③なお、当該マッブ等について学部のものを流用することには限界があるため、単に「図表等による履修系統の可視化」のみを全研究科の統一方針としてはどうか。 ④他方、博士課程では所定年限で修了できずに休学等の学籍異動を行う大学院生も多いことから、履修系統を逸脱した大学院生への支援策(満期退学相当者への対応等)については、別途検討が必要と考える。

No.	学長からの指摘事項	指摘事項の検討状況
4. 全学教務委員会	・大学院では、学生の学修成果を記録した「学修ポートフォリオ」や、学生が取得した学修内容について本学が証明する説明文書である「デイプロマサプリメント」が作成されていない研究科があることから、今後大学院においても「学修ポートフォリオ」、「デイプロマサプリメント」を活用することを大学としての統一方針とするかについて、各研究科の意見等も集約した上で全学教務委員会において検討を開始し、2月末時点での検討状況について報告されたい。	①大学院においても、学生の学修成果を記録し、学修成果を可視化することは重要である。よって何らかの「ポートフォリオ」や「ディプロマサプリメント」を統一的に作成することは有意義である。 ②なお、大学院教育においては修了生のキャリアパスが極めて多様であることから、当該ポートフォリオ等について学部のものを流用することには限界があるため、単に「図表等による学修成果の可視化」のみを全学の統一方針としてはどうか。
5.全学FD·SD委員会	・大学の将来を担う幹部教職員の養成や能力開発を担当する、組織的かつ体系的な体制整備やFD・SDの企画・立案・実施について、各部局の意見等も集約した上で、全学FD・SD委員会において検討を開始し、2月末時点での検討状況について報告されたい。	①全学FD・SDセンター (仮称)の設置の検討  ・会学共通の教職員の能力向上に向けた課題の抽出やDPを踏まえた教育方法の検討及びこれらの課題解決並びに教職員のFD・SD等を担う全学センターの設置が必要ではないか。 ・F Der の投調を果たす事在教員を配置し、アクティブラーニングなど教育力向上に関するFD、教学マネジメントに関するFD、モデルコアカリキュラムの変更に伴うFD、研究力向上のためのFD等を体系的に計画・実施することが可能となる「全学FDセンター」の設置が望ましいのではないか。 ・大学の共通の教職員力を育成するためのツールや教材の開発、ツールの大者、研修血を一元化し、その下で、各学科のFD委員会がそれらを活用し学科社自の課題に対り組むことで、効率的な教職員力の育成につながるのではないか。 ・合理的配慮、人権研修、ハラスメント研修、研究支援も全学FD・SDに位置づけられるため、現在別々の組織が実施しているこれらを統括する組織が望ましいのではないか。 ・全学的な研修会の一元管理(中央・括管理)により、各委員会の研修(例)・倫理研修など)をFD・SD活動として、体系化・効率化したらどうか。・シリーズ化された研修の導入により、継続的なスキル向上が期待できるのではないか。 ・全学的な研修会の一元管理(中央・括管理)により、各委員会の研修(例)・倫理研修など)をFD・SD活動として、体系化・効率化したらどうか。・シリーズ化された研修の導入により、継続的なスキル向上が期待できるのではないか。 ②今後開催する予研を会等のテーマ、研修目的及びその概要について (目的)教学マネジメントの大学全体レベルを今後検討するために、「国内会の医療専門職教育の動向」を理解し、今後必要な体制を想起する。(内容)・国内外の医療専門職教育の動向について情報提供。・教学マネジメントの視点から本学の現状と課題についてテーマごとに意見交換。 ○2025年度以降の入学生の特徴に関する講義(外部講師)と意見交換。 ○2025年度以降の入学生の特徴に関する講義(外部講師)と意見交換。 ○文生表述ルーブリックの作成の意義と活用に関する講義。・どのような大学共通ルーブリックが必要かの検討。・大学共通ルーブリックの作成の意義と活用に関する講義。・どのような大学共通ルーブリックが必要かの検討。・大学共通ルーブリックに汎用可能なルーブリックの作成の意義と活用に関する講義。・どのような大学共通ルーブリックが必要かの検討。・大学共通ルーブリックの作成の意義と活用に関する講義。・どのような大学共通ルーブリックが必要かの検討。・大学共通ルーブリックの作成の意義と活用に関する講義。・どのような大学共通ルーブリックの作成の意義と理解し、教育に活かすため。(内容)・学生参加型FD・SD に関する研修を確認し、類似と活動をしている教職員からの情報提供と意見交換。 ○子業工法に対しための表述を理解し、教育に活かすため。(内容)・学生参加型FD・SD に対したる研修について「目的教職員の対した」と表述を理解していて、「目的教育を理解していて、「目的教育を関する関する研修のでは、「対しないないないないないないないないないないないないないないないないないないない

No.	学長からの指摘事項	指摘事項の検討状況
		<u>〇教育能力向上のためのFDの実施</u> ・授業デザインの基礎知識 — 今の学生に合った魅力ある授業・カリキュラムの作り方、・アクティブラーニングの実践 — 学生の意欲を引き 出す授業設計、・大学のDX化 — AI時代の演習講義の進め方と効果的な評価の可視化
		<u>○研究能力向上のためのFD</u> ・科研費申請の最新動向と採択・獲得のポイント、・助成金獲得の方法と手続きの実践的なTips
		<u>○教職協働実現のためのFD・SD</u> ・ハラスメントのない大学づくり、・学生のメンタルヘルス支援(特に自殺予防への取り組み)、・大学の防災対策(南海トラフ地震や気象災 害への備え)
		<u>〇生成系AIの活用と課題</u> ・ChatGPTなど生成系AIが大学教育に与える影響と活用法